

令和5年度 授業改善推進プラン 高学年

| | 令和4年度授業改善プランの検証と調査結果の分析 (○はおおむねできていること、△は課題があること) | 授業改善策 (○よいところを伸ばすための方策、△課題を解決するための方策) |
|--------|--|---|
| 国 語 | <p>○話す目的や伝えたいことを中心に捉えて聞き取ることや、立場や役割に応じて話すことはおおむねできている。</p> <p>○物語では登場人物の気持ちや様子を読み取ることはおおむねできている。</p> <p>△文章を要約したり、文章中の言葉同士の関係を明確にしたりしながら書く力に課題がある。</p> <p>△前年度の漢字が定着していない。</p> | <p>○話し合いの学習では、相手や目的に応じた話し方を指導するとともに、相手の意図や話題の中心を捉えて話を聞くことを指導することで、発言内容と目的や意図を関連付けて考えることができるようにする。</p> <p>○叙述をもとに考えをまとめる学習を引き続き取り入れる。</p> <p>△文章構成を丁寧に指導して、文章中の要点を捉えられるようにする。また、自分の考えを文章で表す機会を多く設定し、主語、述語、修飾語などの関係を捉えながら書く経験を積ませる。</p> <p>△日々の授業や宿題の中で前年度の漢字を復習する機会を作り、定着を図る。</p> |
| 社 会 | <p>○地図の読み取りはおおむねできている。写真をもとに考える力はある。また、地図記号や方位の理解、廃棄物の処理にかかわる課題については正答率が他の項目よりも高かった。</p> <p>△内容によって定着の差が大きい。5年「人々の健康や生活環境を支える事業」6年「日本の領土、輸入や輸出」などの項目は正答率が低い。</p> <p>△資料に着目して読み取り、表現する力に課題がある。</p> | <p>○引き続き学習の中で地図を使って位置を確認するときに、方位を用いて位置関係を理解させたり、海流や川の名前などを繰り返し定着させたりする。</p> <p>△理解度が低い単元について復習を行い、繰り返しの指導の中で定着を図る。</p> <p>△問いに対して、地図や資料をもとに根拠をもって、考えたり説明したりする活動を授業の中で取り入れることで読み取り考える力を高める。また、一つ一つの資料を丁寧に読む方法を伝えていくとともに、「読み取ったことから考えたこと」を話し合う場を設定したり、2つ以上の資料を比較して、比べて考える活動を設定したりして、資料を読む力を高める。</p> |
| 算 数 | <p>○図を使って比較量を求める問題が目標値と比べて10ポイント以上上回った。</p> <p>△分数と小数の基本的な計算の定着が低い。5年「小数÷整数」6年「分数のたし算ひき算」では、目標値に対して10ポイント以上下回った。</p> <p>△図形領域では5年「分度器の読み取り」「四角形の作図」が目標値に対して20ポイント以上下回り、6年「四角形の内角の和」「ひし形の面積」が約10ポイント下回った。</p> | <p>○文章題の時は、数直線や関係図などを用い、思考を整理させてから立式できるようにしていく。</p> <p>△タブレットドリルの中の「たしかめプリント」や「フォローアッププリント」「ドリル」などを活用しながら反復練習を行う。必要に応じて朝学習にプリント学習を取り入れる。それらを通じて基礎を定着させるとともに理解を深める。</p> <p>△作図や角度の測定に関しては、小グループを活用し児童同士確認し合いながら、技能として確実に定着するようにしていく。また、角や面積の大きさの見当を必ず付けながら、課題に取り組ませ、量感を養わせる。</p> |
| 理 科 | <p>○実物を用いて確かめた内容について、正しく理解している傾向がある。</p> <p>△「地球」領域は目標値より7ポイント以上下回っている分野が多い。</p> <p>△実験や観察困難な内容に関わる知識を習得したり、推測し考察したりすることが難しい。</p> | <p>○予想や仮説・実験方法の検討・実験・結果・考察の流れを意識して指導を続けることにより、科学的思考を高め、知識がより定着するようにする。</p> <p>△可能な限り、実物を用いて確かめるようにするが、実験や観察が困難な内容は調べ学習を充実させたり、補助教材を活用したりして、児童同士の意見交換を深い学びにつなげることができるようにする。</p> <p>△テスト以外にも練習問題に取り組んで問題の解き方にも対応できる力を育てる。</p> |

| | | |
|-----|--|---|
| 外国語 | <p>(第6学年のみの調査結果)</p> <p>○英語で聞き取った語句(野菜・文房具・曜日など)について、その意味を理解することは、目標値を上回っている。</p> <p>○英語で聞き取った身近で簡単な事柄についての対話を聞き、その内容を理解することは、目標値を上回っている。</p> <p>△例文を参考にしながら、身近な人について、簡単な語句や基本的な表現(名前・続柄・職業・性格)を用いて書くことについての正答率が低く、課題がある。</p> <p>△アルファベット(特に小文字)の読み書きに課題がある。</p> | <p>○ALTの発音を聞いたり、ALTの言ったことを繰り返して言ったりする活動を毎時間取り入れることで、英単語や英文を正しく聞き取ったり理解したりできるようにしていく。</p> <p>○ピクチャーカードを用いたチャンツや絵カードを使ったカルタなど、既習の単語を使った活動を授業の最初に反復して行うことで確実に定着できるようにする。</p> <p>△聞いたり話したりする活動だけでなく、単語や英文を書く活動の時間を十分に確保していく。</p> <p>△アルファベットの小文字を4線を使って正しく書けるよう、繰り返し練習していく。</p> |
| 体育 | <p>○Chromebookの活用を積極的に取り入れ、めあてや技能のポイントを明確にすることで児童が主体的に運動に取り組めた。</p> <p>○ペアでの練習やチーム練習で互いに良かった点を伝え合うことで、リレーやマット運動の技能が向上した。</p> <p>△ボール運動に関しては、運動のポイントを相手に伝えることや、自分達で練習方法を考えることには課題がある。</p> | <p>○Chromebookを活用した学習を積極的に取り入れ、めあてや技能のポイントを明確にしたり、友達と交流したりすることで児童が主体的に取り組み、さらに思考力が高まるようにする。</p> <p>○ペアやチームで協力して技術を向上させている姿を価値付け、友達と共に運動することの良さに気付かせる。</p> <p>△自ら技能を向上させる方法を考えられるように、グループの組み方や指導方法を工夫する。また、自分の技を撮影し、確認することで課題を明確にすることができるようにする。</p> |
| 音楽 | <p>○合奏の表現活動に意欲的に取り組むことができる。</p> <p>△今年度は制限なく活動したが、昨年までコロナ禍で活動に制限があった影響もあり、歌唱表現に消極的な児童がみられる。</p> <p>△昨年までコロナ禍で活動に制限があった影響もあり、リコーダーに苦手意識をもつ児童がいる。</p> | <p>○目標を設定し、見通しをもって練習する。</p> <p>△児童が心理的負担を感じる事が無いよう、一人一人の声の実態を把握し、個々の声質にあった歌い方を提示できるようにする。</p> <p>△リコーダー技能の差が大きいので、個別の支援を充実させる。</p> |
| 図工 | <p>○全体的に、造形活動に意欲的に取り組むことができる。</p> <p>○材料や用具について、前年度の学年までの経験や技能を生かし、表現に適した方法などを組み合わせる力が育まれている。</p> <p>△制作する時間をより多く確保するために、図工室のルールをしっかり定着させて、物や道具の準備や管理等をスムーズに子どもたち自身で進められるようにする。</p> <p>△造形活動では、一人一人が自分の活動に自信をもち、作品に対する自分の思いを大切にしながら活動を進めていくことができる力をさらに育てていく。</p> | <p>○児童が興味をもつような題材を吟味し、今まで使ったことのない材料との出会いを大切にする。また、自ら表したくなるようなテーマ設定を工夫し、自己表現することへの充実感や達成感を味わわせる。</p> <p>○様々な材料や道具を自ら選んで使用できる機会を設定する。技能的なポイントを児童が理解しやすいように、ICT機器を使いながら解説し事例を提示する。また個別の支援を充実させる。</p> <p>△どの題材でも、物や道具の準備や管理についての児童の経験値を高めながら、初めて出てくる内容以外のことは、自分たちでできることを意識させながら活動させる。</p> <p>△黒板や電子黒板に授業の大まかな流れやポイントを書き、児童が確認できるようにする。児童に指示する内容を精選し、説明を短くすることで、児童自らが考える時間を十分にとる。道具や材料の使用については、児童が選択できるような機会を設定する。</p> |

| | | |
|---|---|--|
| <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">家庭</p> | <p>○友達と協力し合って課題を解決しようとしている。調理では、授業で学習したことを家庭でも実践している様子が見られ、学習内容を深めている児童が多い。</p> <p>○自分の生活を見直す单元では、習い事等で生活時間を変えられる児童が少なく、学習と生活が結びつかないが、意識は向上した。</p> <p>△裁縫技能では個人差が大きい。</p> | <p>○児童にとって身近な課題を設定し、友達同士で教え合える場を設定する。教材を工夫し、主体的に取り組めるような学習活動を増やす。</p> <p>○実際に家庭で取り組める課題を設定する。</p> <p>△学習ステップを明示し、段階を追って習熟できるようにするとともに、繰り返し学習することで基礎技能を身に付けさせる。また、家庭学習等で実践を繰り返させることにより、技能の習得につながるようにする。</p> |
|---|---|--|